

日仏文学対談

「ノスタルジックな〈私たち〉、
来るべき〈私たち〉」

2026年4月22日 @ 富山大学

参加費
無料
申し込み
不要



トリスタン・ガルシア (Tristan Garcia)

1981年、フランス生まれの哲学者、小説家。
高等師範学校およびソルボンヌ大学で哲学を学び、ピ
カルディ大学で博士号を取得。現在、パリ国立高等美
術学校教授。日本語訳に『激しい生—近代の強迫観
念』（栗脇永翔訳、人文書院、2021年）、『7』（高
橋啓訳、河出書房新社、2025年）、『〈私たち〉とは
何か——人称複数の哲学』（関大聡、伊藤琢麻、福
島亮訳、法政大学出版局、2025年）がある。

「戦争」という言葉が日増しに身近なものとな
る状況下でそれでも「私たち」について考
えていくことはどのように可能なのでしょうか？

『〈私たち〉とは何か』の著者であるトリス
タン・ガルシア氏と翻訳者の対談を通して考
えます。

逐次通訳がありますので、どなたもご自由
にご参加ください。

対談者：福島 亮（富山大学学術研究部人文科学系）



2026年4月22日（水）

13:30 - 15:00

（13:00 開場）



会場 富山大学人文学部大会議室
住所 富山市五福3190番地

プ ロ グ ラ ム

13:00 開場

13:30 トリスタン・ガルシア氏の
ご紹介（10分）

13:40 対談（60分）

14:40 質疑応答（20分）

逐次通訳あり
（日本語・フランス語）
申し込み不要

主催：富山大学人文学部福島亮研究室
後援：在日フランス大使館文化部/
アンスティチュ・フランセ

お問合せ：福島亮研究室
ryofkshm@hmt.u-toyama.ac.jp